

7月25日正午必着

明石春浦先生書



溫慈惠和（漢書）

天の草木を長ぜしむるにならいて人を愛しはぐくむこと。

西 墨濤先生書



四月清和雨乍晴

南山當戶轉分明

更無柳絮因風起

唯有葵花向日傾（司馬光）

7月25日正午必着

条幅部創作課題

四種の詩文から一種を選択して出品のこと。

避暑竹風涼（白居易）

暑を避けて竹風涼し

竹林をわたる風は涼しい。そのあたりに避暑する。

雨晴階下泉聲急
夜靜松間月色遲
（王守仁）

雨晴れて階下に泉声急に
夜靜かにして松間に月色遅し

ひと雨すぎて、きざはしの下の泉は音をたてて流れ、
静かな夜、松林に月光はゆっくり移る。

經廢寶慶寺（司空曙）

廃せる寶慶寺を経 司空曙

黃葉前朝寺 無僧寒殿開

黃葉 前朝の寺 僧無くして寒殿開く

池晴龜出曝 松暝鶴飛回

池晴れて 龜出でて曝し 松暝くして 鶴飛び回る

古砌碑橫草 陰廊畫雜苔

古砌 碑は草に横たわり 陰廊 画は苔を雜う

禪宮亦消歇 塵世轉堪哀

禪宮も亦た消歇す 塵世 轉た哀しむに堪えたり

朝間にて郭公鳥の聲多したかやまはらの梅の木群に（川田順）

夕風や磯山紅葉 日を溶かす

夕風や 磯山紅葉 日を溶かす（幸田露伴）

菅井松雲先生書

半紙部規定課題A

7月25日正午必着

苗 野
肥 飯
薬

※作品には必ず落款を入れてください。

明石春浦先生書

※課題A(楷書)と課題B(四体の中より一書体選択)の二点を出品のこと。

半紙部規定課題B

7月25日正午必着

行書

野飯藥
苗肥

隸書

野飯藥
苗肥

明石春浦先生書

野飯藥
苗肥

野飯藥
苗肥

草書

行草書

まったく羨ましい、君は身の雑事にわずらわされることなく 日々に、世俗のおもいから遠ざかっていられるのだから
辺鄙なところに住んでいるので、人はめったにやってくる来ないし 谷間の奥深きところ、鳥はおのがじし飛びめぐる
蓮の葉の老いたるをとって儒服とし 葉草の苗の肥えたのをとって、粗末な食事をされる
もしも湖のほとりに隠棲するつもりがあるのかとおたずねならば いまも共に帰隠しようとする思いを忘れてはいない
(と答えましょう)

寄「邪逸人」

鄭常

羨君無外事

日與世情違

地僻人難到

溪深鳥自飛

儒衣荷葉老

野飯藥苗肥

若問湖邊意

而今憶共歸

邪逸人に寄す

鄭常

羨む 君が外事無く

日に世情と違ふことを

地僻にして 人到り難く

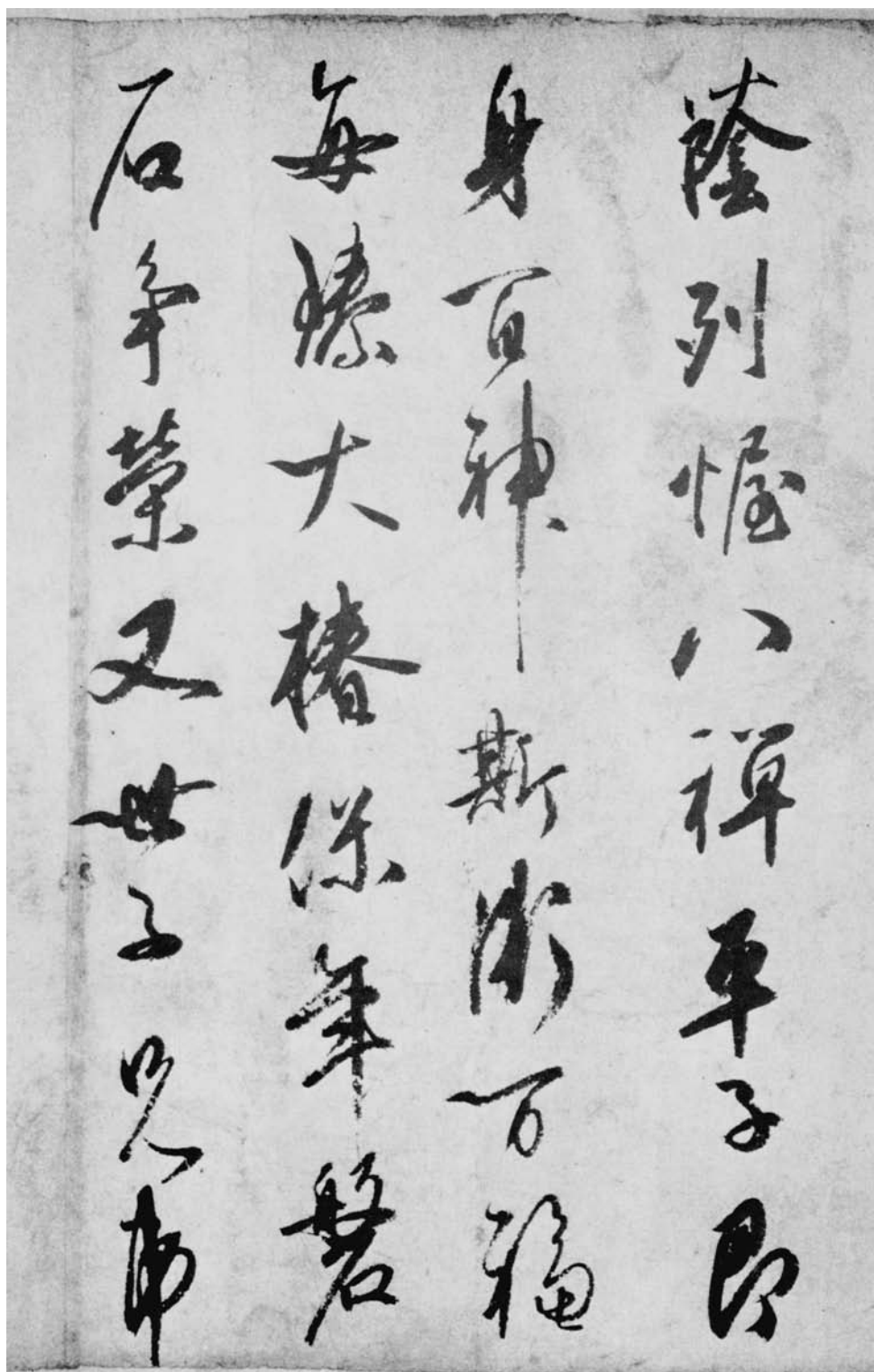
溪深くして 鳥自ら飛ぶ

儒衣 荷葉老い

野飯 藥苗肥ゆ

もし湖辺の意を問わば

而今 共に帰らんことを憶う



陰。列幄八禪。平子即身。百神斯衛。萬福每臻。大椿保年。磐石爭榮。又世子兄弟
 陰を（承け）幄を八禪に列ぬ。平子即身、百神斯に衛り、万福毎に臻り、大椿年を保
 ち、磐石榮を争う。又世子兄弟（等）



：幅を八禅に列ぬ。平子即身、百神斯に衛り、万福



万福毎に臻り、大

伝 橘逸勢・伊都内親王願文

三百年にも及ぶ平安時代の初期において、書道史上特にすぐれた能書家を三筆とよんでいる。嵯峨天皇、空海、橘逸勢がそれである。

橘逸勢に関する資料はほとんど残っていないが、延暦二十三年（八〇四）、平安朝が始まって最初の遣唐使船に乗り、空海や最澄らとともに中国留学をしている。渡唐中の彼は中国の文人たちに「橘秀才」とよばれたほどの秀才の持ち主であつたらしいが、帰国してからはあまり出世しておらず、従五位下という位の但馬権守になったのは死ぬ二年前のことである。嵯峨天皇が亡くなって二日後の承和九年七月十七日、逸勢は謀反の疑いをかけられ、橘姓をうばわれて非人として伊豆へ流されることになってしまう。そして、その護送の途中で命を落とすという非業の最期をあげている。厳しい拷問にも屈服しない度胸のすわった剛毅な性格であつた彼は、身に覚えのないことを認めるわけにはいかなかったのである。死後八年がたつて彼の汚名は取り消され、正五位下が追贈された。また、その後も位の追贈が行われ、それと同時に生前の彼の才能も注目されるようになり、三筆と呼ばれるようになったのである。

伊都内親王願文は、桓武天皇の皇女伊都内親王が、母藤原平子の遺言によって、興福寺の東院西堂に香燈読経料として田畑等を寄進したときの願文である。逸勢の筆という確証はないが、俯仰法を駆使し、ねばり強く力感あふれ、躍動感のあるこの書は彼の気骨をあらわしていると言えよう。

（春濤）

7月25日正午必着

教育部毛筆



雨宮春聲先生書

れっ しゃ たび
列車の旅

中学一年



菅井松雲先生書

とく がわ いえ やす
徳川家康

中学二三年

※作品には必ず学年と氏名を毛筆で記入してください。



おお なみ
大 き な 波

小学五年

藤井良泰先生書



はな しょうじょ
花 と 少 女

小学六年

森戸春濤書

※作品には必ず学年と氏名を毛筆で記入してください。

7月25日正午必着



細谷春誠先生書

えだ^{まめ}豆

小学三年



榎戸春龍先生書

いわ^{しみず}岩しみず

小学四年

※作品には必ず学年と氏名を毛筆で記入してください。



明石幸子書

は ち 小学一年・幼年



藤田幸春先生書

こ か げ 小学二年

※作品には必ず学年と氏名を毛筆で記入してください。

7月25日正午必着

教育部硬筆

ペン字部

男たちは希望をむね
に七つの海にいどむ

小学五年

夏の夜空にちりばめ
られた無数の星くず

小学六年

自然を守ることは人
間自身のためである

中学

風にのって子供たちのたの
しい歌ごえが聞こえます

一般(級位)

くひな鳴く森ひとむらは木暗くて月に晴れたる野べのをちかた(賞明女)

一般(段位)

明石幸子書

※出品には玄和硬筆用紙を使用し幼年・小学は鉛筆 中学・一般はペンまたはサインペンで書くこと。
また、作品には必ず学年と氏名を記入してください。消しゴムを使用した作品は出品には適しません。

一面の草木をゆら
すさわやかな風

小学四年

五色の短ざくに
ねがいをこめたに

小学三年

とてもさわやかな
なつゆめ明けの空か

小学二年

よぞらをながれ
るあまの川が

小学一年

あまのわたまつり
あなたばかり

幼年

※出品には玄和硬筆用紙を使用し幼年・小学は鉛筆 中学・一般はペンまたはサインペンで書くこと。
また、作品には必ず学年と氏名を記入してください。消しゴムを使用した作品は出品には適しません。

けふもかも明日香の河の夕さらすかはず鳴く瀬のさやけるらん

河の夕さらす

けふもかも明日香の河の夕さらすかはず鳴く瀬のさやけるらん

けふもかも明日香の河の夕さらすかはず鳴く瀬のさやけるらん



岩本景楓先生書

けふもかも明日香の河の夕さらすかはず鳴く瀬のさやけるらん (上古磨)